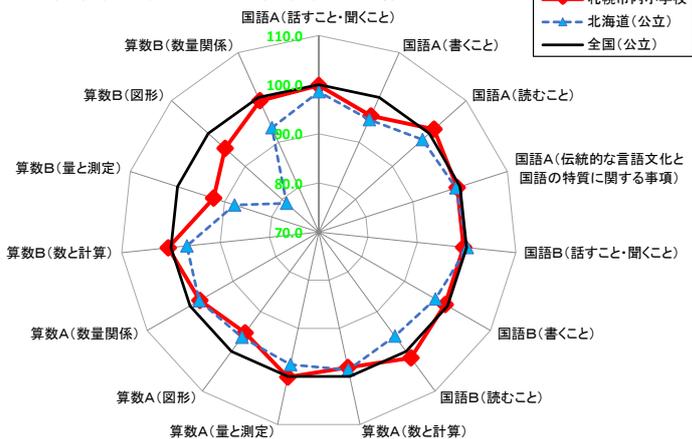


# 札幌市内小学校の状況及び学力向上策(学校数:203校、児童数:13907人)

## 【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの  
(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

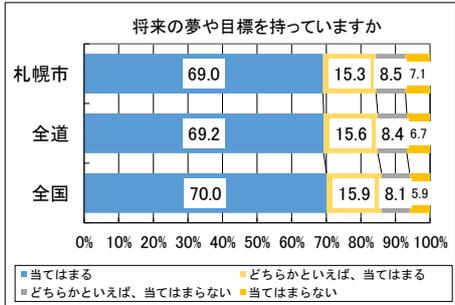
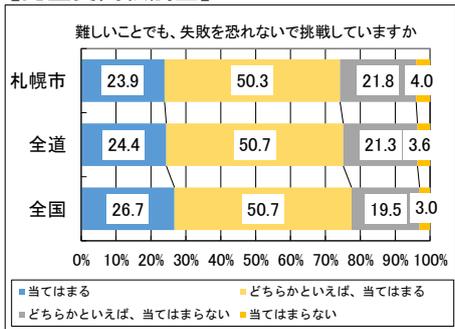


札幌市の平均正答率(%)

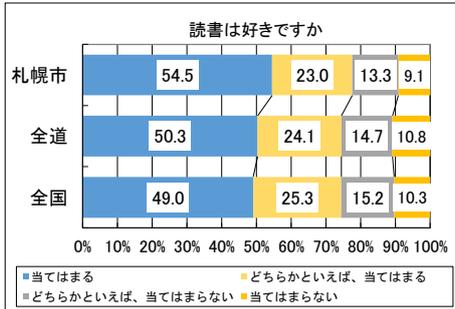
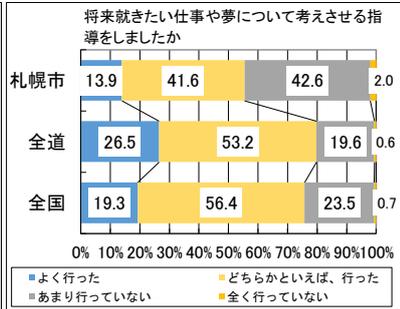
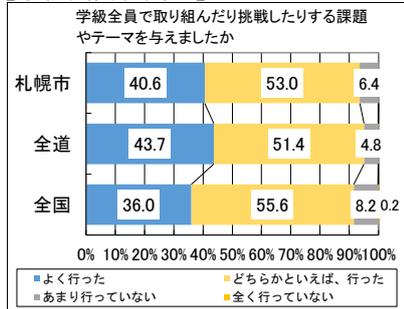
国語A	国語B	算数A	算数B
74 (74.1)	58 (57.6)	78 (77.5)	46 (45.6)

※上段が文部科学省から提供された値、下段の( )内は、札幌市が独自に計算した値。

## 【児童質問紙調査】



## 【学校質問紙調査】



## 【分析】

教科	○ 算数Aの「図形」領域、算数Bの「量と測定」領域において、全国の平均正答率を3.1ポイント以上、下回っている。国語、算数ともにその他の領域においては、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、ほぼ同程度であるが、国語の「読むこと」の領域、算数Aの「量と測定」領域、算数Bの「数と計算」領域において改善が見られた。	○ 知識・技能の定着については、国語の漢字を正しく書くこと、算数の小数の計算などに継続的な課題。
児童質問紙	○ 「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」児童の割合は74.2%と、全国平均より3.2ポイント低い状況ではあるが、平成19年度(69.8%)から年々上昇傾向にある。 ○ 「将来の夢や目標を持っている」児童の割合は84.3%と、全国平均より1.6ポイント低い状況ではあるが、今年度、改善の兆しが見られた。 ○ 読書が好きな児童の割合は77.5%と、全国平均より3.2ポイント高い状況であり、平成19年度の調査開始以来、最も高い数値となっている。	○ 「自分の考えを書くこと」や「判断の理由や解決の方法を説明すること」などの設問で全国と同様に無解答率が高い状況が見られ、課題。
学校質問紙	○ 「学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた」学校の割合は、93.6%であり、全国平均より2.0ポイント高い状況。 ○ 「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」学校の割合は、55.5%であり、全国平均より20.2ポイント低い状況。	

## 【札幌市の学力向上策】

◎ 各学校の創意工夫による指導方法等の工夫改善～「学ぶ力」育成プログラムの活用

- 「学ぶ力」育成プログラムの作成・実行・改善 (PDCAサイクルによる検証改善) (H26年度～) \* 各学校のHPに掲載
  - 「学ぶ力」育成プログラムの様式改訂 (H29～) \* 徹底して行う取組の焦点化・具体的な取組に対する成果検証等
  - 「学ぶ力」育成プログラムの改善に向けた校内研修の充実
    - ・指導主事による助言機会の拡充
    - ・研究開発事業における実践例の普及
    - ・校内研究の代表者に向けた研修会(札幌市教員 校内研究推進会議)
  - 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントを柱として、次の2つの視点から授業改善
    - 1. 課題探究的な学習の充実
    - 2. 学習評価の充実
- ◎ 全市での「課題探究的な学習の推進」
  - 自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する課題探究的な学習を取り入れた授業の充実
    - 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
    - セルフチェックを活用した授業改善
    - 教育委員会において、課題探究的な学習に関する考え方や各施策の関連を整理して、さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランに位置付け、各学校における取組をより一層推進
- ◎ 家庭への啓発等の充実～さっぽろっ子「学び」のススメの活用
  - さっぽろっ子「学び」のススメの活用
    - 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントを柱として、学校と家庭が子どもの学習習慣づくり・運動習慣づくり・生活習慣づくりを進める際の指針として活用
    - さっぽろっ子「学び」のススメを基に、学校と家庭が目標を共有し、子どもの主体的な学びを共に支えていく取組を充実

**「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイント**

1. 難しいことにも挑戦する意欲を伸ばします。
2. 「自ら学ぶ方法」と「人と学ぶ方法」を身に付けられるようにします。
3. 興味関心を伴った知識の獲得と、知識を思い出す力を伸ばします。
4. 自分の「得意」を実践して、新たな目標を定めるようにします。
5. 生活を自らコントロールする力を育てます。

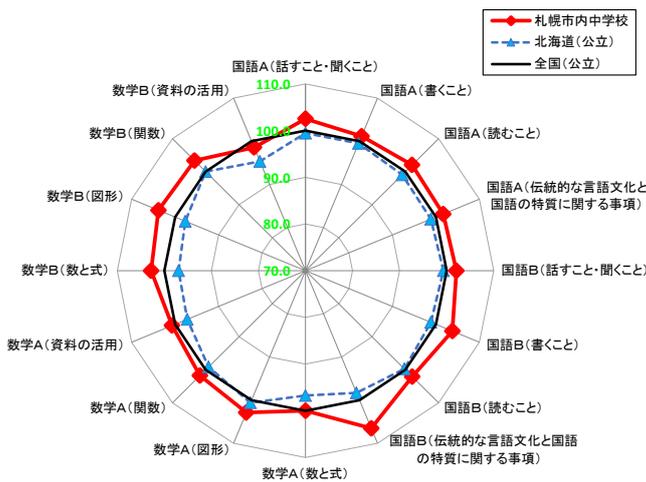
**セルフチェック(例)**

1. 子どもが興味・関心、疑問を十分にもてるようにするためには？
2. 子どもが意欲を持続させることのできる課題を設定するためには？
3. 子どもが課題の解決に向けて見通しをもてるようにするためには？
4. 子どもが協働して課題解決に向かえるようにするためには？
5. 子どもが多面的・多角的に考察できるようにするためには？
6. 子どもが学びのよさや、できるようになった喜びを実感し、次の課題に向かえるようにするためには？

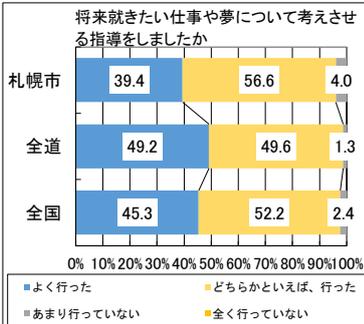
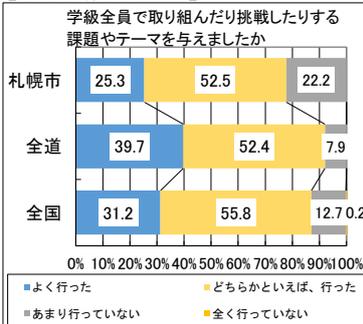
# 札幌市内中学校の状況及び学力向上策(学校数:100校、生徒数:13968人)

## 【教科全体の状況】

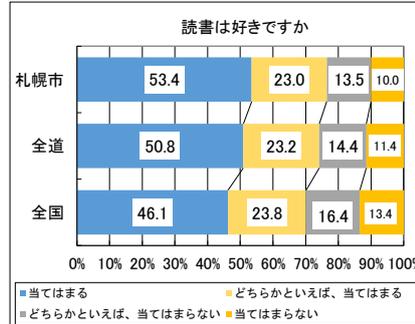
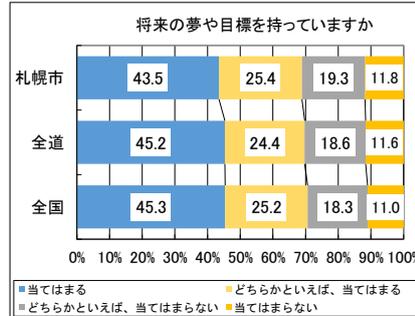
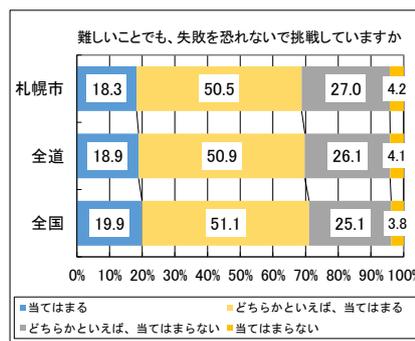
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したものを(市町村の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



## 【学校質問紙調査】



## 【生徒質問紙調査】



## 【分析】

教科	○ 国語、数学ともに全ての領域において、全国の平均正答率と比較して、±3ポイントの範囲内で、ほぼ同程度である。	○ 「活用」に関しては、全国平均正答率を上回る問題が見られている。
生徒質問紙	○ 「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」生徒の割合は68.8%と、全国平均より2.2ポイント低い状況ではあるが、平成19年度(62.7%)から年々上昇傾向にある。 ○ 「将来の夢や目標を持っている」生徒の割合は68.9%と、全国平均より1.6ポイント低い状況ではあるが、今年度、改善の兆しが見られた。 ○ 読書が好きで生徒の割合は76.4%と、全国平均より6.5ポイント高い状況であり、平成19年度の調査開始以来、最も高い数値となっている。	○ 「自分の考えを書くこと」や「判断の理由や解決の方法を説明すること」などの設問で全国と同様に無解答率が高い状況が見られ、課題。
学校質問紙	○ 「学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えた」学校の割合は、77.8%であり、全国平均より9.2ポイント低い状況。 ○ 「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をした」学校の割合は、96.0%であり、全国平均より1.5ポイント低い状況。	

## 【札幌市の学力向上策】

- ◎ 各学校の創意工夫による指導方法等の工夫改善～「学ぶ力」育成プログラムの活用
  - 「学ぶ力」育成プログラムの作成・実行・改善(PDCAサイクルによる検証改善(H26年度～) \* 各学校のHPに掲載
    - 「学ぶ力」育成プログラムの様式改訂(H29～) \* 徹底して行う取組の焦点化・具体的な取組に対する成果検証等
    - 「学ぶ力」育成プログラムの改善に向けた校内研修の充実
      - ・指導主事による助言機会の拡充
      - ・研究開発事業における実践例の普及
      - ・校内研究の代表者に向けた研修会(札幌教育事業 校内研究推進会議)
    - 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントを柱として、次の2つの視点から授業改善
      - 1. 課題探究的な学習の充実
      - 2. 学習評価の充実
- ◎ 全市での「課題探究的な学習の推進」
  - 自ら疑問や課題をもち、主体的に解決する課題探究的な学習を取り入れた授業の充実
    - 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善
    - セルフチェックを活用した授業改善
    - 教育委員会において、課題探究的な学習に関する考え方や各施策の関連を整理して、さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランに位置付け、各学校における取組をより一層推進
- ◎ 家庭への啓発等の充実～さっぽろっ子「学び」のススメの活用
  - さっぽろっ子「学び」のススメ
    - 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイントを柱として、学校と家庭が子どもの学習習慣づくり・運動習慣づくり・生活習慣づくりを進める際の指針として活用
    - さっぽろっ子「学び」のススメを基に、学校と家庭が目標を共有し、子どもの主体的な学びを共に支えていく取組を充実

### 「学ぶ力」の育成に向けた5つのポイント

1. 難しいことにも挑戦する機会を創出します。
2. 「自ら学ぶ方法」と「人と学ぶ方法」を身に付けられるようにします。
3. 興味関心を持った知識の習得と、知識を使いこなす力を伸ばします。
4. 自分の「取組」を実感して、新たな目標をもてるようにします。
5. 生活を自らコントロールする力を育みます。

### セルフチェック(例)

1. 子どもが興味・関心、疑問を十分にもてるようになるためには？
2. 子どもが意欲を持続させることのできる課題を設定するためには？
3. 子どもが課題の解決に向けて見通しをもてるようになるためには？
4. 子どもが協働して課題解決に向かえるようになるためには？
5. 子どもが多面的・多角的に考察できるようにするためには？
6. 子どもが学びのよさや、できるようになった喜びを実感し、次の課題に向かえるようになるためには？